



# 国指定史跡 浅間古墳 × 非破壊調査



浅間古墳の位置

富士市増川に所在する浅間古墳は、全長約91mを測る、東海地方で最大規模の前方後方墳である。古墳時代前期後半(4世紀中頃)に築かれたとみられる東駿河地域の首長墓で、昭和32年7月に国史跡に指定された。

浅間古墳では過去に数度の本格的な測量調査が行われているが、より詳細かつ広範囲の測量を行うため、三次元データを取得するための「空中レーザー測量」が、令和2年と令和3年に行われ、墳丘の形や規模、古墳が立地する地形について、多くの情報が得られた。



(黄線の方形部分、奥は浅間神社敷内) 埋葬施設の存在が考えられる範囲

また、これまで浅間古墳では発掘調査が行われておらず、埋葬施設については不明であったが、令和元年に実施された「地中レーダー探査」により、後方部の社殿西側、一般的に埋葬施設が設けられる場所に、竪穴式石室(あるいは粘土槨)が埋設されている可能性を示す調査結果が得られた。

国指定史跡であることから、古墳を傷つけることになる発掘調査を行うことが難しい浅間古墳において、非破壊調査によって得られたこうした成果は、研究の重要な手掛かりとなるものである。

## 古墳を傷つけず、その姿に迫る。

### 「空中レーザー測量」と「地中レーダー探査」

# 埋蔵文化財ニュース

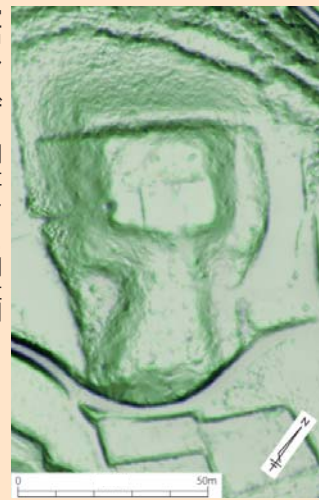
2022年(令和4年)7月吉日  
 富士市教育委員会 文化財課  
 富士市埋蔵文化財調査室

## 浅間古墳 研究史

- 1921年(大正10)** 『静岡県史蹟名勝誌』 前方後円墳であり、埴輪が出土したと記される
- 1930年(昭和5)** 『静岡県史』 第1巻 全長97mの前方後円墳と記述
- 1957年(昭和32)** 国の史跡に指定
- 1957年(昭和32)** 内藤 晃氏による 初めての本格的な測量調査 全長103mの「前方後方墳」であると指摘 葺石が存在し、埴輪は伴わない 年代は古墳時代中期の初め頃
- 1958年(昭和33)** 『吉原市の古墳』 駿河の国では最古かつ最大の古墳と評価
- 1997年(平成9)** 静岡大学考古学研究室による測量調査 全長約90mの前方後方墳に復元される 平面形態は非対称形で、南側が大きい 前方部が比較的短く、古い形態を残したものの 古墳時代前期後半(4世紀中頃)の築造と推定
- 2019年(令和元)** 地中レーダー探査 後方部に建てられた社殿の西側で地表から2.0~2.5mほどの深さに、長辺約9.5m、短辺約6.8mの範囲に、幅1~3m程度の 構造物に囲まれた埋設物があることを示す反応 竪穴式石室(もしくは粘土槨)が残存か
- 2020年(令和2)** 空中レーザー測量(古墳墳丘) 全長90.8mに復元 後方部側面に平坦部(テラス部)が存在 後方部二段、前方部一段築成の前方後方墳
- 2021年(令和3)** 空中レーザー測量(周辺地形) 浅間古墳が南側からの視認性を重視して 場所を選んで造られていることを確認



空中レーザー測量による測量図と 地中レーダー探査で確認された反応(赤い部分)



空中レーザー測量による陰影図



## ここまで見えた! 浅間古墳

### 空中レーザー測量による浅間古墳と周辺地形図(陰影図)

この陰影図はパソコン画面上で自由自在に回転させることが出来る 三次元データで、色々な角度から浅間古墳とその立地する地形を観察 することが可能である。一般公開も計画されている。乞うご期待!!

